

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2015

課題番号：25301053

研究課題名(和文) 学習者のウェルビーイングに資するノンフォーマル教育の国際比較研究

研究課題名(英文) Research on Non-formal Education towards Learner's Well-Being.

研究代表者

丸山 英樹 (MARUYAMA, Hideki)

上智大学・グローバル教育センター・准教授

研究者番号：10353377

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果は、最終報告書として公開している(<https://goo.gl/4Scy0P>)他、一般書としても出版している。『ノンフォーマル教育の可能性 - リアルな生活に根ざす教育へ』(丸山英樹・太田美幸編著, 新評論, 2013年)(<http://goo.gl/n5iRCg>)本研究の目的は、学校教育も扱いながらも、より柔軟なノンフォーマル教育の概念を用いて、学習者の良い状態(Well-being)に資する様々な教育の形を国際比較によって捉えることであった。

研究成果の概要(英文)：Research results are downloadable from <https://goo.gl/4Scy0P>. The results for the Japanese public was also published <http://goo.gl/n5iRCg>. The project aimed to summarize the concepts of non-formal education (NFE) and illustrate various education forms which contribute toward learner's well-being by literature review, fieldworks, and theory building. The research team paid careful attention to a possible integration for meaningful learning for the learners instead of discussions between "school or out-of-school," "teaching or learning," and "governmental or civil initiatives" as a series of dichotomy.

研究分野：教育学

キーワード：ノンフォーマル教育 市民参加 伝統教育 国際教育協力 移民教育 持続可能な開発 生涯学習 社会化

1. 研究開始当初の背景

一般的にノンフォーマル教育 (Non-formal Education: NFE) とは、正規の学校教育の枠外で、特定の目的をもって、ある程度組織的に行われる教育活動と言われることが多い。いつでも・どこでも・誰でも・多様な方法で学習を可能とする概念として、生涯学習との重複が大きく、最近では用語として使われることは少ない。しかし、国際機関では教育環境と手法および評価に関連して頻繁に扱われ、諸外国では政府の部局や伝統的な実践が多数存在し、日本国内では趣味や資格取得などの学習ニーズおよびフリースクールなどのオルタナティブ学校として注目されることから、今も NFE は必要不可欠な研究要素である。

通常、教育という言葉には、子どもや学校のイメージが伴いがちであるが、家庭教育や社会教育、成人教育といった言葉が示すように、学校や子どもに限定されたものではない。例えば、学習塾や習い事といった子どもが教育サービスの受け手として扱われる場合に限らず、企業が行う従業員を対象とした職業訓練・研修、個人的な関係性のもとその場の行為に参加することで知識と技能を獲得できる徒弟制、軍務に従事する人々に与えられる教育、免許取得のための自動車学校、あるいは日常の調理方法を学ぶ料理教室など、NFE 概念によって教育・学習という営みの奥深さを捉えることができる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、学校教育も扱いながらも、より柔軟なノンフォーマル教育 (Non-formal Education : NFE) の概念を用いて、学習者の良い状態 (Well-being) に資する様々な教育の形を国際比較によって捉えることであった。これまでの研究から、NFE 概念によって、学校の外か内か、教師中心の「教え」または学習者中心の「学び」か、さらには誰が求める・認める教育なのかを整理し、二項対立の概念図式によって議論するのではなく、学習者にとって意味のある教育とは何かを探るものであった。

3. 研究の方法

- (1) 学習者個人と集団の相互作用に対する NFE の影響についての研究：これは、移民の抱える教育ニーズを主に欧州在住イスラーム教徒を対象に調査する他、国際機関や国際協力機構 (JICA) による国際教育協力の現場の調査であった。
- (2) 学習者の組織化と社会変容における NFE の機能についての研究：こ

れは市民の社会参加や NFE が見られる場所の歴史・文脈に着目し、欧州、アジア、ブラジルについて調査を行うものであった。

4. 研究成果

出版物：『ノンフォーマル教育の可能性 - リアルな生活に根ざす教育へ』(丸山英樹・太田美幸編著, 新評論, 2013年)

(<http://goo.gl/n5iRCg>) 及び最終報告書 (<https://goo.gl/4Scy0P>)

なお、本研究によって得られた主な知見は、次のようなものであった。

- NFE は、学校教育との違いとして「formal」の度合いによって分類されることが多いが、そこには「正規」と「形式」が含意されているため、その両者を区別することで、NFE 概念を伴う研究領域を整理することができた。
- 近代学校教育のみが「教育」として捉えられがちである中、元来その土地や文化、集団による固有の教育・学習がある。また、近代学校制度が特定の価値観を正当化する機能を持つことから、それを相対化・対抗する教育・学習の営みに潜在する可能性を NFE 概念によって把握することは、多様化が進む現在では重要である。
- 国際協力において、NFE は、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の教育に関する目標 4 だけでなく、全ての目標において重要な学習として理解され、広く下支えする要素である。特に、SDGs は先進国と発展途上国の両者で取り組むことが合意されており、途上国のコミュニティを支援するだけでなく、先進国が途上国の経験を学ぶなど相互学習が可能とされ、多様な国際協力が今後も展開される。
- 比較教育学において、近代学校教育システム、あるいは宗教教育に着目した研究は多いものの、その関係性や当事者の抱える多様なニーズや周辺環境との力学などを扱った研究はまだ少ない。しかしながら、近年は NFE を扱う研究は、国内外の学会などでも見られるようになってきた。
- 様々な議論がある Well-being 概念に関連して、NFE は、教育・学習成果を、標準化され近代学校教育によるカリキュラムや制度によるものだけでなく、重層的な潜在能力の獲得として扱うことを可能とする。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者
には下線)

[雑誌論文](計 24 件)

- 丸山英樹, 津波災害後のスリランカにおける持続可能な地域社会の構築: ノンフォーマル教育研究の観点から, 『比較教育学研究』, 52, 168-177. (2016).
- 澤野由紀子, UNESCO の「Global Network of Learning Cities」これからの世界の生涯学習の動向, 『社会教育』, 835, 6-12. (2016).
- Maruyama, H. & Sogel, K., Non-formal Education for Sustainable Society: a Case Study of: "Hobby School" in Estonia, *Turkish Journal of Sociology*, 30, 65-77. (2015).
- Maruyama, H., Non-formal Education for A Culturally Isolated Student in A Remote Area, *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, 9, 27-39. (2015).
- Maruyama, H., How networking can help guide global citizenship in Japan, *Adult Education and Development*, 82, 52-57. (2015).
- 米原あき, セオリー評価における社会調査の活用可能性: 「協働型社会調査」の導入事例, 『ガバナンス研究』, 11, 173-188. (2015).
- 米原あき, 『2015 年度兵庫県豊岡市政策モニタリング調査(調査報告書)』, 豊岡市政策報告書(株)公共経営・社会戦略研究所), n.a., 1-44. (2015).
- 澤野由紀子, 諸外国における地域の再生と生涯学習ー欧州から世界に広がる学びのまちづくり, 『日本生涯教育学会年報』, 36, 89-107. (2015).
- 田村梨花, ブラジルにおける包括的教育の概念と実践に関する一考察, 『ラテン・アメリカ論集』, 49, 62-78. (2015).
- 田村梨花, 地域社会による教育構築 サンパウロ・エリオポリスの試みから, 『Encontros Lusófonos』, 17, 29-33. (2015).
- Saito, E. and Atencio, M., Pedagogical content knowledge in action: Its impromptu development by an expert practitioner, *Pedagogy, Culture and Society*, 24(1), 101-121. (2015).
- Saito, E., Watanabe, M., Gillies, R., Someya, I., Nagashima, T., Sato, M., and Murase, M., School reform for positive behaviour support through collaborative learning: Utilising lesson study for learning community, *Cambridge Journal of Education*, 45(4), 489-518. (2015).
- Saito, E. and Atencio, M., Lesson study for learning community (LSLC): conceptualising teachers' practices within a social justice perspective, *Discourse: Studies in the Cultural Politics of Education*, 36(6), 795-807. (2015).
- 丸山英樹, 課題研究報告「持続可能な社会と著者の参加」, 『比較教育学研究』, 48, 142-145. (2014).
- 米原あき, 研修評価における「行動変容」への視点: 「4 レベルアプローチ」を手掛かりに, 『国立教育政策研究所紀要』, 143, 209-219. (2014).
- 米原あき, 「国際理解教育」から「持続可能な開発のための教育」へ: 学習指導要領にみる変遷と展開, 『ガバナンス研究』, 10, 197-216. (2014).
- Maruyama, H., Sustainable Security for Lifelong Learners and Societies, *Journal of International Cooperation in Education*, 15(4), 139-155. (2014).
- 小原優貴, 次世代リーダー育成に取り組むインド・ヒマラヤ発、インターナショナル・スクール, 『Child Research Net』. (2014).
- 江原裕美・二井紀美子, ブラジル比較教育学会(SBEC)の活動と比較教育学研究の動向, 『比較教育学研究』, 49, 53-62. (2014).
- Maruyama, H., Community Learning in Japan, *Adult Education and Development*, 81, 46-47. (2014).
- Yonehara, A., Rethink the Human Development Index: A path toward comprehensive development evaluation, *日本評価研究*, 14(1), 31-46. (2014).
- 丸山英樹, 中東・イスラーム地域にみる多様な教育ニーズ, 『アジア研ワールド・トレンド』, 230, 14-15. (2014).
- Maruyama, H., Kominkan: Official and Civil Potentials, *Adult Education and Development*, 81, 46-47. (2014).
- 米原あき, 生活環境の階層性を考慮したニーズ・アセスメント・モデルに関する方法論的検討: タンザニアの初等学校学齢児童の識字能力開発を事例に, 『行動計量学』, 40(2), 123-134. (2013).

〔学会発表〕(計 47 件)

- Maruyama, H., Yonehara, A. & Nii, K., What changed and unchanged?: Dynamics of non-formal education with a case of CEDEP/PDFA, Brazil, The 60th Annual Conference of Comparative and International Education Society, Sheraton Vancouver, Vancouver. (口頭発表) 2016/3/9
- Maruyama, H. & Yonehara, A., A Theory of Non-formal Education for Well-being of Learners and Their Society, CESA 2016, The 10th Biannual Comparative Education Societies of Asia, Manila. (口頭発表) 2016/1/29
- Mihara, R., Promoting Education as a Means of Child Sexual Abuse Prevention: Analysis through the Result of the First Monitoring Round of the Council of Europe Convention on Protection of Children against Sexual Exploitation and Sexual Abuse (Lanzarote Convention), CESA 2016, The 10th Biannual Comparative Education Societies of Asia, Manila. (口頭発表) 2016/1/28
- 米原あき, ESD へのプログラム評価の導入, 日本/ユネスコパートナーシップ事業「ESD の教育効果(評価)に関する調査研究」による公開シンポジウム『学校を中心とした ESD の教育評価のありかた』, 東京国際フォーラム, 東京都. (招待講演) 2016/1/11
- 米原あき, インパクト評価のための線形階層モデル, 日本国際開発センター「プロフェッショナル統計ワークショップ」, 国際開発ソリューションズ, 東京都. (外部講師) 2016/1/8
- 太田美幸, 日本の学校の内と外 国境を越える子どもたちの学校経験, 一橋大学社会学部連続市民講座, 一橋大学, 国立市. (招待講演) 2015/12/19
- Yonehara, A., Commentary on "Sustainable Development: Lessons from UNDP Evaluations", UNU Seminar "UNDP on Monitoring and Evaluation of the Sustainable Development Goals", 国連大学, 東京都. (コメンタリー) 2015/12/14
- 米原あき, Sustainability の評価「指標」と「モデル」の視点から: Goal 4 (包摂的かつ公平で質の高い教育の提供) と Goal 17 (グローバル・パートナーシップの強化) を中心に, 日本評価学会第 16 回全国大会, JICA 沖縄国際センター, 沖縄県. (口頭発表) 2015/12/13
- Maruyama, H., Sustainable Teacher's Professional Development: Stand-Alone to Network, KEDI International Symposium on Post 2015 Education Agenda and Global Cooperation, K-Hotel, Seoul. (招待講演) 2015/11/24
- Saito, E, Issues on Multi-cultural Education in Vietnam and Singapore., Invited Speech, 2015 International Conference on Multiculture and Education, organised by Inha University, Inha University, Incheon, Incheon, Korea. (招待講演) 2015/10/18
- Saito, E, Issues of Teaching and Learning Processes in Vietnam and Singapore, Teacher Educational Seminar, organised by Cheongju National University of Education, Cheongju National University of Education, Cheongju, Korea. (招待講演) 2015/10/17
- Saito, E, Reforming a School based on Lesson Study for Learning Community., Invited speech at International Comparison of Class Culture and Cooperation in PDS organised by Cheongju National University of Education, Cheongju, Korea., Cheongju National University of Education, Cheongju, Korea. (招待講演) 2015/10/16
- Saito, E, Lesson Study for Learning Community: An Approach of School Reform, EDUCA 2015, the 8th Annual Conference for Teacher Professional Development, organised by Ministry of Education and Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand., Bangkok, Bangkok. (基調講演) 2015/10/14
- 丸山英樹, ポスト 2015 年の教育開発における ESD (Education for Sustainable Development) の役割, 第 16 回アフリカ教育研究フォーラム, 東京大学, 東京. (招待講演) 2015/10/8
- 小原優貴, インドの初等教育における有償の「影の教育」の拡大, 第 28 回日本南アジア学会, 東京大学, 東京. (口頭発表) 2015/9/8

- 丸山英樹, Non-formal Education in Japan and the World: Theory & Perspective, JICA 課題別研修「ノンフォーマル教育拡充」研修, JICA 東京, 東京. (招待講演) 2015/8/27
- 丸山英樹, 教育の本質を捉え直す ESD, 平成 27 年度千葉大学・千葉県高等学校ユネスコスクール ESD 研究会, 千葉大学, 千葉市. (招待講演) 2015/8/24
- Maruyama, H., Reading Literacy in Japan: between contents and reflectivity, International Symposium on Reading and Reading Engagement, Australian Christian University, Melbourne. (招待講演) 2015/7/10
- 丸山英樹, ESD 活動を通して見えた持続するもの・させるもの, 平成 27 年度第 2 回奈良教育大学附属中学校研究会, 奈良教育大学附属中学校, 奈良市. (招待講演) 2015/7/3
- Yuki Ohara, Policy and Practice of Private Schools in India, International Council on Education for Teaching (ICET) 59th World Assembly, 鳴門教育大学, 鳴門. (口頭発表) 2015/6/20
- 米原あき, 教育事業におけるプログラム評価理論の適用, 関西教育行政学会, 神戸大学, 兵庫県. (口頭発表) 2015/6/20
- 二井紀美子, 日本・ブラジルにおける幼児の語彙習得の比較 - 形容詞を中心に, 日本比較教育学会第 51 回大会, 宇都宮大学, 宇都宮市. (口頭発表) 2015/6/13
- 丸山英樹, 日本学術振興会「震災から学ぶ社会科学」学術調査の紹介, 日本比較教育学会第 51 回大会, 宇都宮大学, 宇都宮市. (口頭発表) 2015/6/13
- 丸山英樹, ノンフォーマル教育によるナショナル・アイデンティティの構築, 日本比較教育学会第 51 回大会, 宇都宮大学, 宇都宮市. (口頭発表) 2015/6/12
- 米原あき, 丸山緑、澤田秀貴, ODA 技術協力におけるプログラム評価の試み, 国際開発学会第 16 回春季大会, 法政大学, 東京都. (口頭発表) 2015/6/7
- Maruyama, H., How Do We Live with Natural Disaster?, 9th International Conference of UNESCO BSP, Pirita TOP SPA Hotel, Talinn. (招待講演) 2015/6/6
- 丸山英樹, リテラシーとは: これからの世界の教育を考える, リテラシー研究会, ICU, 三鷹市. (招待講演) 2015/4/13
- 二井紀美子, ブラジル民衆教育の今: ブラジリア連邦区の取り組みから, 名古屋大学教育発達科学研究科附属生涯学習・キャリア教育研究センター11周年記念日本産業教育学会東海・北陸地区例会合同研究会, 名古屋大学, 名古屋市. (口頭発表) 2015/1/24
- 田村梨花, ブラジルにおける Educa??o Integral の概念分析 Mais Educa??o プログラムとサンパウロの Bairro-Escola の試みから, ラテン・アメリカ政経学会第 51 回大会, 神戸大学, 神戸市. (口頭発表) 2014/11/16
- Maruyama, H., Are We Sustainable?, UNDESD World Conference in Aichi-Nagoya, 名古屋国際会議場, 名古屋市. (口頭発表) 2014/11/11
- 二井紀美子, ブラジル連邦区の事例にみるブラジル民衆教育の新たな傾向 - 学校教育への接続強化と官民協働, 日本社会教育学会, 福井大学, 福井市. (口頭発表) 2014/9/27
- 丸山英樹, 欧州におけるムスリム移民の社会的位置と参画, 日本比較教育学会第 50 回大会ラウンドテーブル, 名古屋大学, 名古屋市. (口頭発表) 2014/7/11
- 見原礼子, ヨーロッパのモスクにおけるノンフォーマルな学びの多様性, 日本比較教育学会第 50 回大会ラウンドテーブル, 名古屋大学, 名古屋市. (口頭発表) 2014/7/11
- 二井紀美子, ブラジル: 民衆識字運動と公教育の接点 - CEDEP と DF Alfabetizado の事例から, 名古屋大学, 名古屋市. (口頭発表) 2014/7/11
- 見原礼子, ムスリムの子どもの教育をめぐる課題 ヨーロッパ 6 カ国を対象とした比較調査結果の分析を中心に 日本比較教育学会第 49 回大会ラウンドテーブル, 上智大学, 東京. (口頭発表) 2014/7/5
- 澤野由紀子, ロシア連邦における生涯学習政策の形成と実践の展開, 日本教育政策学会第 21 回大会, 東京大学, 東京. (口頭発表) 2014/7/5
- 米原あき, プログラム評価における社会調査の活用可能性: 「協働型社会調査」の試み, 日本評価学会, JICA 地球ひろば, 東京. (口頭発表) 2014/5/31
- Maruyama, H., International Assessments and Sustainable Security

for Lifelong Learners and Societies,
The Fourth International Conference
on Adult Education, University of Iasi,
Romania. (招待講演) 2014/4/29

- Yukiko Sawano,

(日本の生

涯学習の政策と実践), 15th Adult
Learning Week in Russia, Europa
House, St. Petersburg. (招待講演)
2014/4/29

- 米原あき, 行動変容評価の可能性:「トルコ国防災教育プロジェクト」の教員研修評価を事例に, 日本/ユネスコパートナーシップ事業「ESDの教育効果(評価)に関する調査研究」によるESD評価ワークショップ, 岡山大学東京サテライト・オフィス, 東京. (招待講演) 2014/3/11
- Maruyama, H., Role of Education in a Process of Reconstruction of Community after Natural Disasters:a comparison among China,Japan,New Zealand and Sri lanka, Hong Kong Comparative Education 2014 Conference, University of Hong Kong, Hong Kong. (口頭発表) 2014/2/28
- 丸山英樹, パキスタン・アフガニスタンの女性に教育機会を～教育を通じた女性のエンパワメント～, 独立行政法人国際協力機構, JICA, 東京. (招待講演) 2013/12/8
- Sawano Yukiko, The Influence of the Scandinavian Model of Popular Education and Lifelong learning in Japan, MIMER Research Conference 2013, Uppsala University, Uppsala, Sweden. (口頭発表) 2013/11/6
- 米原あき, 「国際理解教育」から「持続可能な開発のための教育」へ:日本の学習指導要領にみる「新しい教育」の変遷と展開, 日本比較教育学会, 上智大学, 東京. (口頭発表) 2013/7/6
- Maruyama, H. & Ohta, M..., What is Identity of Non-formal Education beyond Dichotomy?, XV World Congress of Comparative Education, University of Buenos Aires, Argentina. (口頭発表) 2013/6/28
- Maruyama, H., ICT Policy for Education in Japan, Training on Distance Education Planning for the Improvement in Quality and Access of

Education, JICA PNG Training, 筑波大学東京キャンパス, 東京. (招待講演) 2013/5/29

- Maruyama, H., Critical Earthquake and Nuclear Crisis: Learning Opportunity to Change?, The Baltic Sea Project UNESCO, Kloogaranna Youth Camps, Estonia. (招待講演) 2013/5/12

〔図書〕(計 56 件)
本書類の上限を越えるため、略。詳細は、最終報告書(<https://goo.gl/4Scy0P>)参照。

〔その他〕
ホームページ等 <https://goo.gl/4Scy0P>

6. 研究組織

(1)研究代表者

丸山 英樹 (MARUYAMA, Hideki)
上智大学・グローバル教育センター・准教授
研究者番号: 10353377

(2)研究分担者

太田 美幸 (OHTA, Miyuki)
一橋大学大学院・社会学研究科・准教授
研究者番号: 20452542

二井 紀美子 (NII, Kimiko)
愛知教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 30549902

澤野 由紀子 (SAWANO, Yukiko)
聖心女子大学・文学部・教授
研究者番号: 40280515

田村 梨花 (TAMURA, Rika)
上智大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 50349031

見原 礼子 (MIHARA, Reiko)
長崎大学・多文化社会学部・准教授
研究者番号: 70580786